

来週の『売り物』記事はこれ



2016年5月12日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

正直に誠実に忍耐強く 日本人ムスリムの半世紀

15日(日)



海外渡航が高嶺の花だった1965年、3人の若者がカイロにあるイスラム教スンニ派の最高学府「アズハル大学」に留学しました。エジプト政府の招きによる留学の条件はムスリム(イスラム教徒)になること。「エジプトへ行けるなら入信してもいい」「留学目的で入信するのは後ろめたい」。それ



ぞれの思いから入信した3人は4~11年の留学期間を経験し、生涯を通じて篤い信仰心を持つこととなります。一方、時代は高度経済成長期。社会人となった彼らは日本と中東を結ぶビジネスの最前線を走り、中にはイラクで人質となって「人間の盾」にされた人もいます。それでも「ムスリムになって後悔したことは一度もない」。現役を退いて70歳を過ぎた今、3人は西欧とイスラム社会の対立に心を痛め、関係改善を願う活動を進めています。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

道内を走るローカル線の一部、留萌線の留萌—増毛

北海道新幹線の開業に沸く陰で廃止

夕刊特集ワイド



北海道新幹線の開業に沸く陰で今年の12月、道内を走るローカル線の一部が廃止されます。留萌線の留萌—増毛間、16・7キロ。2014年に亡くなった俳優、高倉健さんが主演した映画「駅 STATION」の舞台です。健さんや地元の人々がさまざまな人間ドラマを織りなし、一つの歴史の幕を閉じようとしている北の地を、記者が訪ねました。降旗康男監督や女優の烏丸せつこさんにもインタビューしています。

「人文学」の危機は、「日本の未来」の危機

人間文化研究機構長 立本成分さん

オピニオン面 [そこが聞きたい] 19日(木)

このところ「人文学の危機」が言われています。文部科学省が昨年6月、国立大学の組織見直しを求める通知がきっかけでした。文系学部の改組、廃止を求めているにも受け止められる内容に、一部の国立大学は反発しています。国立滋賀大長が今春の入学式で文科省の姿勢を批判するなど、その余波はいまだ続いています。人文学軽視の風潮は科学技術偏重のいびつな社会を生み出しかねない——。そう警鐘を鳴らす学者がいます。国立国語研究所、国立民族学博物館など国立の6人文系研究所を束ね、「人文学の総元締め」と呼ばれる人間文化研究機構長の立本成分さん(75)＝写真＝です。それはまた、真の「教養」とは何か——という普遍的な問いへのわかりやすい言葉で練られた答えになっています。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

エビが食卓に上がるまで

くらしナビA面 18日(水)



エビ消費量がかつて世界一だった日本は、現在も中国、米国に次ぐ世界3位の消費国です。しかし、自給率は10%未満。ベトナム、インド、インドネシアで生産されるエビは、冷凍されて商社や水産会社買い付けられます。日本のODA(政府開発援助)で養殖池が造成され、森林伐採や化学飼料による環境破壊が問題視されたこともある輸入エビの現状を伝えます。

自宅の耐震改修

くらしナビA面 20日(金)



熊本地震では、建物の損壊が相次ぎました。自宅が地震に対して十分な強さを持つのか、特に戸建て住まいの人は気になるところです。住宅の耐震性は建築時期がひとつの目安。1981年の「新耐震基準」導入以降の建物かどうか。耐震診断や耐震改修には多くの自治体に補助制度があります。木造住宅の耐震性を高める方法を紹介し、改修の費用と効果を考えます。

女の気持ちをたずねて

おんなのしんぶん  16日(月)

読者投稿コラム「女の気持ち」に掲載された投稿者を記者が訪ねる人気コーナー。今回は、学校教員を退職後、自宅でシニア英語塾を開いた68歳女性宅を訪問します。定年後の就職活動は「年齢の壁」に阻まれ、門前払いされましたが、個人塾を開講したことで年上の生徒たちと人生を語り合う充実した時間を得たといいます。生徒たちも登場して盛り上がります。

